

参議院選挙の結果をどう考えるか そして

大阪府政・吹田市政は

国民は消費税「ノー！」という
受動的な拒否反応を示した

丹羽野 今年9月に吹田市職員労働組合の委員長に就任しました。私にとって記念すべき第一号の対談相手は、神戸大学教授で吹田自治都市研究所所長の二宮厚美さんです。まずお聞きしたいのは、先の参議院選挙の結果をどう考えるか？です。民主党が大きく議席を減らす中で、自民党の議席は増えたものの、得票数は伸びていない。躍進したのはみんなの党でした。この傾向というのは…



シヨンがありました。しかし今回の参議院選挙の主要な争点は、「消費税を増税するか否か」でした。この点について、国民は「NO」と判断した。つまり国民は受動的な拒否反応を示したということです。

「積極的な選択」をするためには、何が欠けていたのか

丹羽野 逆にお聞きしたいのですが、国民が「積極的な選択」をするためには、何が欠けていた

のでしょいか？

二宮 これからますます少子高齢化が進むわけですから、社会保障を充実させるとともに、今の不況を克服して景気を浮揚させるためには、財源が必要なのは明らかです。国や自治体の財政を増収させるためには、①消費税率を引き上げるか、②大企業、大資産家から税金を徴収するか、この2つに1つだったのです。こんな風に問題設定をすると、国民は「積極的な選択」を行い、「富裕層から税金を徴収せよ」と判断したでしょう。増収させるためには消費税しかない、という選択肢では、嫌だ！としかならない。

とりわけ不況期には過剰な資金が上層部、つまり富裕層にだけ貯まっているのです。一部

二宮 厚美さん

の大金持ちに貯まったお金を、税という形で吸い上げて、国民生活へ回す、という選択肢が必要だったので。

不況時には、富裕層に過剰な資金が貯まる

丹羽野 不況の時期に上層、つまり富裕層に過剰な資金が貯まる

出席者

神戸大学教授、吹田自治都市研究所所長
二宮 厚美さん
吹田市職員労働組合執行委員長
丹羽野和夫さん



というのはどういうことでしょうか？

二宮 通常であれば、企業は稼いだお金を投資へ回し、さらに生産を続けますが、不況期は作っても売れないので、その資金が「遊休資金」になる。とりわけ一昨年のリーマンショック後、輸出が落ち込み、国内消費も落ち込んでいます。その分、大企業は人件費をカットし、収益を上げようとする。すると国民の購買力はさらに落

国や自治体の財政を増収させるための選択肢は2つ――
①消費税率を引き上げるか
②大企業や、大資産家から税金を徴収するか

偽りの危機をあまり
消費税増税を訴える

丹羽野 そんな「過剰資金」に課税すれば、国家財政は回復するの、それを全くしないで、菅首相は「消費税を上げないとギリシヤのようになる」と、国民を脅かしていましたね。

二宮 日本とギリシヤは全く違います。ギリシヤの国債は80%が外国からの資金でまかっていますが、今年の日本の国債発行44兆円強は全て国内で消化されます。「過剰資金」が投資に向かわず、国債を買っているのです。菅首相の主張は、偽りの危機をあまり、消費税増税の口実として使われただけでした。

成長で収益が上がっても、企業は海外に投資するので、労働者や地域経済に回ってこない。そして過剰資金の一部が、内部留保と株式投資、銀行への貯蓄という形で貯まってしまい、生活に苦しむ国民の側には回ってこないのです。



マスコミや財界を代弁する政党にだまされたい